

保谷駅前公民館

大人の地図講座

〜地図の作り手に訊いてみよう
地図のこと〜

地図作りの技術者に、地図はどのように作られてきたのか、防災で注目されている地図の利用方法等についてお話を聞きます。



▼とき別表のとおり 水曜日 14時〜16時

▼ところ 保谷駅前公民館
▼対象 市内在住・在勤・在学者
▼講師 山岡光治(元国土地理院勤務、オフィス地図豆店主)
▼定員 20人(申込順)
▼申込 3月5日(月)14時から
電話で保谷駅前公民館へ

回	月日	内容
1	3/21	地図は地球の箱庭 〜地図の上には陽もさし、風も吹く、そんな本当の地図の作り方〜
2	3/28	地図は嘘をつかないもの 〜嘘をつかない地図の読み方を知り、これからのくらしに生かす〜

田無公民館

親子二胡体験講座



中国の楽器二胡を親子で弾きます。楽しい一時を過ごしましょう。「中国胡弓楽坊」のメンバーがお手伝いします。

▼とき 3月17日(土)・18日(日) 14時〜17時

▼ところ 田無公民館
▼対象 市内在住・在勤・在学者(小1〜中3と保護者)
▼定員 親子20組40人
▼申込 往復はがきで、往信の表に田無公民館のあて先を記入。裏面に①住所②親子氏名(ふりがなも)③電話番号④二胡体験希望と記入。返信表に保護者のあて先を記入。



きめ細かい指導もうれしいひととき

裏面は無記入。

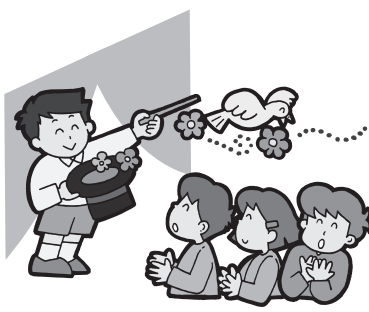
▼締切 3月10日(土)消印有効
※「中国胡弓楽坊」によるミニコンサートもお楽しみに。

保谷駅前公民館

親子でマジシャンになろう!

マジックは一瞬で皆が笑顔になるから不思議ですね。親子であつと驚くコミュニケーションマジックに挑戦してみよう!

▼とき別表のとおり 土曜日 10時〜12時
▼ところ 保谷駅前公民館



回	日時	内容
1	3/17	マジックを覚えよう 〜びっくり自己紹介&リズムカルマジック〜
2	3/24	皆でマジックを楽しもう 〜復習とミニ発表会〜

▼対象 小学1年〜3年生とその保護者
▼講師 マジシャン南海子(フロマジシャン)
▼定員 15組(申込順)
▼申込 3月2日(金)10時から
電話で保谷駅前公民館へ

ひばりが丘公民館

自治と社会教育を考える講座

私たちの学習・文化活動は、どのように自治につながっているのでしょうか。具体的な街の課題や、地方自治をめぐる最近の動向も視野に入れて考えます。

▼とき 3月18日(日)・25日(日) 14時〜16時

▼ところ ひばりが丘公民館
▼対象 市内在住者(申込多数の場合は抽選)
▼定員 20人(申込順)
▼講師 進藤兵(都留文科大 学教授)
▼申込 電話かメールで3月8日(木)までにひばりが丘公民館へ

【メールでの申込方法】

- ①メールアドレスは一面参照
- ②件名「自治と社会教育申込」
- ③本文「氏名・住所・電話番号」を明記

保谷駅前公民館

小学生の楽しい実験 飛ばす絵本を作ろう

ページを開くと中から森や動物や家の絵が飛び出してくる。この飛び出す「しかけ」を作って楽しい絵本を作ろう。

▼とき 3月31日(土) 14時〜16時

▼ところ 保谷駅前公民館
▼対象 市内在住・在学の小中学生
▼定員 20人(申込順)
▼講師 嵐田康平(鎌倉しかけ絵本教室所長)
▼材料費 一人500円(当日集め)



▼申込 3月5日(月)10時から
電話で保谷駅前公民館へ

保谷駅前公民館

ドキュメンタリー映画を通して「今」を考える

2本を同時上映します

「子どもたちを放射能から守れ 福島のだたかい」 (2011年 監督：湯本雅典)



福島第一原発爆発後、4月に文部科学省が学校等の放射線暫定基準値として20ミリシーベルト/年を発表。福島の親たちは子どもたちを守るために立ち上がった。

「動物たちの大震災ー生きてきた、150日の日々」 (2011年 監督：穴戸大裕)



東日本大震災では犬や猫などの動物たちも、大きな受難を生き抜いてきました。石巻と福島で、動物たちと人々が紡いだ日々を描きます。

▼とき 3月23日(金) 1回目: 15時、2回目: 19時
▼上映時間 2本合わせて67分
▼ところ 保谷駅前公民館
▼対象 市内在住・在勤・在学者

▼定員 40人(当日先着順)
▼申込 当日、各回の上映開始15分前から受付をします。直接、5階集会所までお越しください。

公運審コラム

公民館の重要性

公運審委員 大島 真之
時は今、時代の変化により、私達の生活設計や価値観も大きく変化してきております。

我が街西東京市も合併により、枠組みが変わり、地域の活動エリアが大きくなってまいりました。私は公運審委員を務めさせていただいてから2期3年目になります。公民館研究大会や都公連の研修会で学んだ事は、すべて目新しく本当に目を見張ることばかりでした。

私にとって公民館は、集う、学ぶ、結ぶ、作る、探るものであり、生涯に渡って学習する場と位置づけられました。しかしながら公民館を取り巻く環境が大きく変化してきて、公民館が取り組むべき課題も山積している実情も知ることができました。昨年の3月11日、あの未曾有の東日本大震災が起こり、悲しみと共に誰もがこれからの生き方、暮らし方を見つめ直す機会となりました。そして公民館との関わりや絆が深まり、公民館の重要性が再認識されようとしています。

公民館は、いつでも、どこでも、誰でもが学べる公共施設であり、特に西東京市では他市と比較して恵まれている点が多々あると思います。私の公運審委員の任期も残すところ一年余りとなりますが、公民館についてもっともっと勉強していきたいと考えております。

